

町地域おこし協力隊の安田さん、羽地さん

空き家を活用した活動拠点づくりを開始

白老の新たな文化拠点、小規模の店舗が集う人の交流場所「薬(ひこばえ)」

羽地さんから皆さんへのお手紙

こんにちは!地域おこし協力隊の羽地夕夏と申します。現在、協力隊として本にかかわる文化観光振興の活動をしつつ、移動本屋「またたび文庫」を運営しています。

ことし1月から、同じ協力隊の安田裕太郎さんと共同で、あらたな取り組みを始めました。白老駅近くの大町商店街の一角、旧神戸事務所だった場所(大町3-9-11)を活用し「白老の文化拠点」をつくらうとしています。

その場所のなまえは、「薬(ひこばえ)」。薬とは、倒木や切り株から生えてくる若芽のことをいいます。この若い芽によって、木が伐採された後でもあらたな森ができるのです。

私たちが運営する場所も、薬のようにあらたな文化を生む個人が集い、まちの風景を変える力をもった場所にしたい。そんな思いをもって名付けました。

現在は、協力隊員の野田和規さんと安田さんによる野草民泊や自然ガイドなどの活動拠点「観森」とまたたび文庫のシェアオフィスのような形で使いつつ、定期的に人があつまるイベントを開催していますが、最終的には、小規模の店舗が集う場所にしたいと考えながら試験的に、運用をはじめてみました。

1月14日は、またたび文庫と、コーヒーや喫茶、弁当の販売とコラボしたマルシェ風のブックカフェイベントを開催。まちの人を中心に150人ほどのお客さんにきていただきました。

まだリノベーションなどは入れていません。ほぼ、以前の状態をさらけだしたままです。きれいにリノベーションされた状態でいざオープン!というのが一般的なやり方ですが、私たちはあえて「未完成」の状態から開かれた場所にしていきたいと思っています。

町内外の人たちが気軽に集まり、みんなで「こんなのがあればいい」と意見を出しながら「ひこばえ」の風景が徐々に変わっていく。そのほうが、自然で面白いのではないか?と思うからです。

「自分の商売をはじめたいけど、家賃などの経費がかさむ」という意欲ある人の障壁を減らし、まちを活性化させたい。

「なんか最近、こんなアイデアがあって、イベントをやってみたい」という声を拾い、まちの人に楽しんでもらいたい。

そんな気持ちをもってこの場所を運用していこうと思っています。毎週末には、またたび文庫の「週末本屋」やイベントを開催する予定です。

ぜひふらりとあそびにきてくださいね。

活動3年目の町地域おこし協力隊員の安田裕太郎さんは、JR白老駅周辺の課題を「小規模事業者は駅周辺でお店・事務所を作りにくい」「駅から徒歩圏で飲食することを抜きにして滞在・消費できる場所が少ない」「特に高校生を中心に町内外の若者が滞在できる場所・作業スペースが少ない」ことと考え、これらの解決策として空き物件を活用し、お店のシェアハウスや作業・滞在スペースとする拠点を確保しました。私費の投入になるため、一步一步のリノベーションになるそうですが、人が集い、交流できる新たな拠点づくりを目指しています。

お店のシェアハウスや、人々の集い・交流拠点としての整備を始める建物



初のイベントでにぎわった「ひぐらしブックカフェ」(1月14日)

▼2月18日(土)のイベント

洞爺のパン屋さん「森と休日」の出店が決まりました。ほか、地元のコーヒー屋さんや手作り子ども服を扱う札幌の服飾雑貨屋さんなど3店ほどが集まる予定です。時間は11時～16時。

【問い合わせ先】 安田 Instagram: @mimori_yasou または Eメール: info@nodateyasou.life
羽地 Eメール: matatabibunko@gmail.com ☎090-2836-4671